海蔵あくら

四日市市立海蔵小学校
校　長　室　だ　よ　り
令和 4 年 11 月 9 日
第９号
文責　校長　柳川洋史

運動会をやるようになったのは？

運動会のご参観ありがとうございました。

コロナ禍対応開催が数年続いています。海蔵小の児童数、保護者数、運動場面積等を鑑み、PTA 役員の方の協力を得ながら、実施することができました。重ねて厚く御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

今年度は、学年ごとに児童・保護者ともに入れ替え制で進行しました。同時に LIVE 配信することで、待機中の子どもたちも教室で思わず歓声を上げる場面も見られました。昨年度は他学年の演技を見ることができなかったので、新鮮に感じられたところもあったのかもしれません。

５年生は、配信を視聴できた最高学年として（6 年生は係として運動場で観覧）、一言感想を書き、全学年全クラスに届けました。ごく一部を紹介すると…

「1 年生へ…大玉転がし、見ていてすごくハラハラしました。ボンボンを持ってエアギターをするところも上手でした」

「２年生へ…チェッコリダンスそろっていたよ。玉入れも頑張っていてかわいかった」

「３年生へ…新時代のダンス、みんなで集まったり広がったりするところがめちゃすごかった」

「４年生へ…ソーラン節、高い動きも低い動きも、力強かった」

「６年生へ…最初の名乗りや、クラスごとのダンスがすごくかっこよかった。綱取り合戦も仲間と作戦を考えて力を合わせていることがよくわかった」

そして書いてくれた５年生について、私が他の学年に「５年生の演技はどうだった？」と聞くと、「５年生のダンス（群青）は、リズムに乗っていてかっこよかった。あんなふうにやってみたい」という声が上がりました。

今年は LIVE 映像とはいえ、学年を超えて演技を見合うことで、新しい交流機会が生まれたと感じさせられました。

さて、このような運動会の始まりについて、歴史的経緯に触れてみたいと思います。NHK チコちゃんの素朴な疑問に紹介された説では…一説として、明治７年、海軍兵学寮で「競闘遊戯会」なるものが行われたことが日本初の運動会ともいわれています。

当時の日本には、スポーツという概念がなく、兵学寮カリキュラムは座学ばかりだったそうです。体育は、馬術と武道だけと、身体を動かす機会は少なかったとのこと。

それを見たイギリス海軍顧問団の団長、アーチボルト・ルシアス・ダグラスは、座学だけだとストレスがたまり、良くないと「競闘遊戯会」を開催しました。

この「競闘遊戯会」が大盛況に終わると、のちの初代文部大臣、森有礼がこれに目を付け、文部大臣就任後、全国の学校に運動会を義務付けました。

この時導入されたのが、軍隊式の集団訓練を通して愛国の士気を高めることを目的とした「兵式体操」だったそうです。「気を付け」「前へならえ」「全体前へ進め」などは、兵式体操の名残です。

昭和に入って戦争が激化すると、運動会は軍事色が強まり、種目名にも戦争をイメージした名前が付けられるようになりました。しかし、戦争が終わると、運動会からも軍事色が消えていき、共通の楽しい思い出を作る行事となっていきました。

（諸説あります）

いずれにせよ、子どもたちが運動会に向けて取り組んだ過程や当日経験した思い出が、成長の糧となることを願っています。

「体育の日」から「スポーツの日」へ

～子どもたちの体力低下と運動・スポーツに親しむ子どもの育成～

1964 年 10 月 10 日、東京オリンピックの開会式が行われ、これを記念し 1966 年、国民の祝日に関する法律に基づき 10 月 10 日「体育の日」が長く親しまれてきました。

その「体育の日」を 2020 年から「スポーツの日」とした背景には、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機として、広く世界で使われている「スポーツ」を用い、より自主的・自発的に体を動かそうという思いが込められているのでしょう。

しかしながら、現代の子どもたちの運動離れや体力低下は、学校教育の課題の一つであり、実態として運動やスポーツが得意な子と苦手な子、運動をよくする子とそうでない子の二極化傾向がみられています。

その要因は様々ですが、子どもを取り巻く環境の変化、とりわけ「時間」「空間」「仲間」も三つの「間」の減少が指摘されています。友だちと遊ぶ時間や屋外で遊ぶ場所がない、室内遊びやコンピューターでの一人遊びが増えていることなどがあげられます。

子どもたちには、大人のように必要に迫られてスポーツジムで体を鍛えるといったモチベーションは存在しません。そのため、運動に向かう意欲や関心をどのようにもたせるかがポイントになります。本来、子どもが有している遊びに夢中になる力や、友だちと一緒に動く喜びを引き出す授業づくりをさらに進めていくことがとても重要であると考えます。

また、アスリートやオリンピアンとの触れ合いも、子どもたちのスポーツへの関心を高めることになるでしょう。

学校での体育の授業、体育的な行事が、子どもたちにとって、さらに魅力あるものとなるように工夫し、今後もスポーツに親しむ子どもの育成に努めてまいります。